

医薬品に共通する特性と基本的な知識

【問 1】

医薬品の本質に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑かつ多岐に渡るが、一般用医薬品については、そのすべてが解明されている。
- b. 一般の生活者が一般用医薬品の添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、効能効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることもある。
- c. 一般用医薬品の販売に従事する専門家においては、医薬品の有効性、安全性等に関する新しい情報の把握に努める必要がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問 2】

医薬品のリスク評価に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品については、食品と同等の安全性基準が要求されている。
- b. 治療量を超えた量を単回投与した後に毒性が発現するおそれが高いことは当然であるが、少量の投与でも長期投与されれば慢性的な毒性が発現する場合もある。
- c. 医薬品に対しては製造販売後の調査及び試験の実施の基準として Good Vigilance Practice (GVP) と製造販売後安全管理の基準として Good Post-marketing Study Practice (GPSP) が制定されている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問3】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品の副作用は、薬理作用による副作用とアレルギーに大別することができる。
- b. 医薬品の添加物は、アレルギーを引き起こす原因物質とはならない。
- c. 医薬品の副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりでなく、血液や内臓機能への影響等のように、直ちに明確な自覚症状として現れないこともある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問4】

次の a～c の () に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

※なお、同じアルファベットの欄には同じ字句が入ります。

(a) は、本来、細菌やウイルスなどが人体に取り込まれたとき、人体を防御するために生じる反応であるが、(a) 機構が過敏に反応して、好ましくない症状が引き起こされることがある。これを (b) という。通常の (a) 反応の場合、人体にとって (c) ための必要な過程であるが、(b) においては過剰に組織に刺激を与える場合も多い。

	a	b	c
1	免疫	アレルゲン	有害なものを体内から排除する
2	代謝	アレルギー	有用なものを体内に取り込む
3	免疫	アレルギー	有用なものを体内に取り込む
4	免疫	アレルギー	有害なものを体内から排除する
5	代謝	アレルゲン	有用なものを体内に取り込む

【問5】

医薬品の使用に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品の乱用の繰り返しによって、慢性的な臓器障害等を生じるおそれがある。
- b. 適正な使用がなされる限りは安全かつ有効な医薬品であっても、乱用された場合には薬物依存を生じることがある。
- c. 医薬品の販売等に従事する専門家は、必要以上に大量購入などを試みる不審な購入者等に対しては慎重に対処する必要がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問6】

医薬品の相互作用に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 相互作用を回避するには、ある医薬品を使用している期間やその前後を通じて、その医薬品との相互作用を生じるおそれのある医薬品の併用を控えなければならないのが通常である。
- b. かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、鎮咳去痰薬、アレルギー用薬では、成分や作用が重複することが多く、通常これらの薬効群に属する医薬品の併用は避けられることとされている。
- c. 相互作用は、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄される過程で起こり、医薬品が薬理作用をもたらす部位では起こらない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	正	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問7】

食品と医薬品の相互作用に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 酒類をよく摂取する者では、一般的に肝臓の代謝機能が高まっていることが多いため、アセトアミノフェンが、通常よりも代謝されやすくなり、体内から速く消失して十分な薬効が得られなくなることがある。
- b. 外用薬であっても、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受ける可能性がある。
- c. カフェインやビタミンAのように、食品中に医薬品の成分と同じ物質が存在するために、それらを含む医薬品と食品と一緒に摂ると過剰摂取となるものがある。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	正	正	正
5	誤	正	誤

【問8】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 5歳未満の幼児に使用される錠剤の医薬品の添付文書には、服用時に喉につかえやすいので注意するよう記載されている。
- b. 一般に、小児は、大人と比べて血液脳関門が未発達であるため、循環血液中の医薬品の成分が脳に達しやすく、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。
- c. 乳児の疾患においては、基本的には医師の診療を受けることが優先され、一般用医薬品による対処は最小限にとどめるのが望ましい。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	正	正	正
5	誤	正	誤

【問 9】

高齢者への配慮に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品の使用上の注意においては、おおよその目安として65歳以上を「高齢者」としている。
- b. 一般に高齢者は生理機能が衰えつつあるが、副作用を生じるリスクは若年時と同等である。
- c. 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化したり、治療の妨げとなる場合がある。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	誤	正
3	正	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 10】

妊婦への配慮に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ビタミンA含有製剤のように、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされているものがある。
- b. 便秘薬には、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。
- c. 一般用医薬品は、多くの場合、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価は容易である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 1 1】

医療機関で治療を受けている人が一般用医薬品を使用する場合、配慮しなければならないことに関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 疾患の種類や程度によっては、一般用医薬品の有効性や安全性に影響を与える要因となることがある。
- b. 登録販売者は医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人に対し、一般用医薬品との併用の可否について、その薬剤を処方した医師若しくは歯科医師又は調剤を行った薬剤師に相談するよう説明する必要がある。
- c. 過去に医療機関で治療を受けていたが、現在、治療を受けていなければ、一般用医薬品の使用について特に注意する必要はない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 1 2】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. プラセボ効果は、医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることをいう。
- b. プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）や、条件付けによる生体反応、時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）等が関与して生じると考えられている。
- c. プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は、望ましいもの（効果）だけである。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	正	正	誤

【問 1 3】

医薬品の品質に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般用医薬品の販売に従事する専門家は、医薬品が高温、多湿、直射日光等の下に置かれることのないように、保管・陳列に留意する必要がある。
- b. 医薬品は、適切な保管・陳列がなされない場合、効き目が低下するおそれはあるが、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることはない。
- c. 一般用医薬品は、購入後すぐに使用されるとは限らず、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、外箱等に記載されている使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされるべきである。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

【問 1 4】

一般用医薬品の役割に関する次の 1 ~ 5 の記述について、誤っているものを一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- 1. 重度な疾病に伴う症状の改善
- 2. 生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防（科学的・合理的に効果が期待できるものに限る。）
- 3. 生活の質（QOL）の改善・向上
- 4. 健康の維持・増進
- 5. 健康状態の自己検査

【問 15】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般用医薬品の購入を検討している者に対して、医療機関の受診を勧めたり、医薬品の使用によらない対処を勧めることは適切ではない。
- b. WHO（世界保健機関）によれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする」こととされている。
- c. 一般用医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等に対して常に科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行い、セルフメディケーションを適切に支援していくことが望まれる。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	誤
3	正	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	正	正

【問 16】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般用医薬品の場合、必ずしも情報提供を受けた本人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。
- b. 購入者等が医薬品を使用する状況は随時変化する可能性があるため、販売数量は一時期に使用する必要量とする等、販売時のコミュニケーションの機会が継続的に確保されるよう配慮することが重要である。
- c. 情報提供を受ける購入者が医薬品を使用する本人で、かつ、現に症状がある場合には、言葉によるコミュニケーションから得られる情報のほか、その人の状態や様子全般から得られる情報も、状況把握につながる重要な手がかりとなる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	正	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問17】

サリドマイドに関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. サリドマイドの光学異性体のうち、一方の異性体には鎮静作用、他方には血管新生を妨げる作用があるとされている。
- b. 日本では、西ドイツ（当時）の企業から勧告や警告が発せられていたにもかかわらず、出荷・販売停止、回収措置などの対応が遅れ、問題視された。
- c. サリドマイドによる薬害事件は、世界的に問題となったため、WHO（世界保健機関）加盟国を中心に市販後の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問18】

スモン訴訟に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. スモン訴訟とは、解熱鎮痛薬として販売されたキノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患した^りことに対する損害賠償訴訟である。
- b. スモン患者に対しては、治療研究施設の整備、治療法の開発調査研究の推進、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担等の制度が設けられている。
- c. スモン訴訟を契機の一つとして、医薬品の副作用による健康被害の迅速な救済を図るため、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	正	正	正
5	誤	正	誤

【問 19】

H I V 訴訟に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. H I V 訴訟は、血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルス（H I V）が混入した原料血漿から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、H I V に感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- b. H I V 訴訟は、国及び製薬企業を被告として提訴されたが、1996年3月に大阪地裁と東京地裁で和解が成立した。
- c. H I V 訴訟を契機に、血液製剤の安全確保対策として、検査や献血時の問診の充実が図られた。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問 20】

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

※ C J D とはクロイツフェルト・ヤコブ病をいう。

- a. C J D は、タンパク質の一種であるプリオンが原因であるとされている。
- b. C J D 訴訟は脳外科手術等に用いられたウシ乾燥硬膜を介して C J D に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- c. C J D 訴訟は、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設される契機のひとつとなった。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

主な医薬品とその作用

【問 2 1】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. インフルエンザ（流行性感冒）は、ウイルスの呼吸器感染によるものであり、感染力が強く、また、重症化しやすい。
- b. セミアルカリプロテイナーゼは、タンパク質分解酵素で、体内で産生される炎症物質（起炎性ポリペプチド）を分解する作用がある。
- c. カルビノキサミンマレイン酸塩は、^{たん}痰の切れを良くすることを主な目的としてかぜ薬に配合される。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	正	誤
4	正	誤	誤
5	誤	誤	正

【問 2 2】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 葛根湯^{かっこんとう}と小青竜湯^{しょうせいりゅうとう}は、構成生薬としてマオウを含む。
- b. 小柴胡湯^{しょうさいことう}は、インターフェロン製剤で治療を受けている人では、間質性肺炎の副作用が現れるおそれが高まるため、使用を避ける必要がある。
- c. アセトアミノフェンは、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを主な目的として用いられる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	誤
4	正	正	誤
5	誤	誤	正

【問 2 3】

次の a～c の () に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

イブプロフェンは (a) の産生を (b) することで消化管粘膜の防御機能を低下させるため、消化管に広範に炎症を生じる疾患である胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎又はクローン氏病の既往歴がある人では、それらの疾患の再発を招くおそれがある。また、出産予定日 1 2 週以内の妊婦については、(c) とされている。

	a	b	c
1	プロスタグランジン	抑制	服用してもよい
2	プロスタグランジン	抑制	服用しないこと
3	プロスタグランジン	促進	服用しないこと
4	インスリン	促進	服用してもよい
5	インスリン	抑制	服用しないこと

【問 2 4】

解熱鎮痛薬に配合される成分のうち、ピリン系解熱鎮痛成分を次の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1. サリチルアミド
2. サザピリン
3. エテンザミド
4. アスピリン (アセチルサリチル酸)
5. イソプロピルアンチピリン

【問 2 5】

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ヒスタミンは、脳の下部にある睡眠・覚^{せい}醒^{せい}に関与する部位で神経細胞の刺激を介して、覚^{せい}醒^{せい}の維持や調節を行う作用をもつ。
- b. ジフェンヒドラミン塩酸塩は睡眠改善薬として小児にも安心して使用できる。
- c. ブロモバレリル尿素（ブロムワレリル尿素）は、催眠鎮静薬以外の医薬品にも配合されていることがあるので、この成分を含有する医薬品と他の催眠鎮静薬が併用されると、効き目が増強されるおそれがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問 2 6】

カフェインに関する次の a ~ d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1 ~ 5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 尿量の増加（利尿）をもたらす作用がある。
- b. かぜ薬やアレルギー用薬を使用したことによる眠気を抑えるためにカフェインが配合された眠気防止薬を使用するのは適切でない。
- c. 眠気防止薬におけるカフェインの一回摂取量はカフェインとして 500mg、1日摂取量は2,000mg 上限とされている。
- d. カフェインは乳汁中には移行しないので、授乳期間中の女性が服用してもその母乳を飲む乳児には影響がない。

1. (a, b) 2. (a, c) 3. (a, d) 4. (b, c) 5. (b, d)

【問27】

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に配合される成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 抗ヒスタミン成分は、脊髄にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。
- b. スコポラミン臭化水素酸塩は、乗物酔い防止に古くから用いられている抗ヒスタミン成分である。
- c. ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）を調節する作用を示す。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問28】

小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ジャコウは、ウシ科のサイカレイヨウ（高鼻レイヨウ）等の角を基原とする生薬で、緊張や興奮を鎮める作用等を期待して用いられる。
- b. 小児鎮静薬は、夜泣き、ひきつけ、疳の虫等の症状を鎮めるほか、小児における虚弱体質、消化不良などの改善を目的とする医薬品である。
- c. 漢方処方製剤として、抑肝散加陳皮半夏がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問 29】

呼吸器官に作用する薬のうち、麻薬性鎮咳成分を次の1～5の中から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1. クロルフェニラミンマレイン酸塩
2. ジメモルファンリン酸塩
3. クロペラスチン塩酸塩
4. ジヒドロコデインリン酸塩
5. ブロムヘキシシン塩酸塩

【問 30】

次のa～cの記述について、該当する生薬の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ヒガンバナ科のヒバンバナ鱗茎を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- b. バラ科のヤマザクラ又はその他近縁植物の、通例、周皮を除いた樹皮を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- c. ユリ科のジャノヒゲの根の膨大部を基原とする生薬で、鎮咳、去痰、滋養強壮等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c
1	セキサン	オウヒ	バクモンドウ
2	キョウニン	オウヒ	バクモンドウ
3	セキサン	ナンテンジツ	バクモンドウ
4	キョウニン	ナンテンジツ	シャゼンソウ
5	セキサン	ナンテンジツ	シャゼンソウ

【問 3 1】

口腔^{くわう}咽喉薬、うがい薬（含嗽^{そう}薬）に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 用時水で希釈して使用するうがい薬は、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。
- b. アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、細菌等の微生物を死滅させたり、その増殖を抑えることを目的として用いられる。
- c. 噴射式の液剤は、息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐いたり、声を出しながら噴射することが望ましい。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	誤	正
3	正	誤	正
4	誤	正	正
5	正	誤	誤

【問 3 2】

胃の薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 制酸成分を主体とする胃腸薬については、酸度の高い食品と一緒に使用すると胃酸に対する中和作用が低下することが考えられる。
- b. 安中散^{あんちゆうさん}、人参湯^{にんじんとう}（理中丸^{りちゆうがん}）、平胃散^{へいゐさん}、六君子湯^{りっくんしとう}は、いずれもカンゾウを含む。
- c. 健胃薬、消化薬は、医薬部外品として製造販売されているものもある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 3 3】

胃の薬に配合される成分とその主な作用・目的に関する次の a～d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

成分	主な作用・目的
a. 沈降炭酸カルシウム	中和反応によって胃酸の働きを弱める
b. ジメチルポリシロキサン	炭水化物、脂質、タンパク質、繊維質等の分解に働く酵素を補う
c. ウルソデオキシコール酸	消化管内容物中に発生した気泡の分離を促す
d. スクラルファート	胃粘膜を覆って胃液による消化から保護する

1. (a, b) 2. (a, c) 3. (a, d) 4. (b, c) 5. (b, d)

【問 3 4】

腸の薬に関する次の 1～5 の記述について、誤っているものを一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1. 次没食子酸ビスマスは、腸粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめる（収斂）ことにより、腸粘膜を保護することを目的として用いられる。
2. ジオクチルソジウムスルホサクシネート（DSS）は、腸内容物に水分が浸透しやすくする作用があり、糞便中の水分量を増して柔らかくすることによる瀉下作用を期待して用いられる。
3. 瀉下薬については、相乗効果が得られるため、複数の瀉下薬を併用することが望ましい。
4. ベルベリン塩化物は、細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として用いられる。
5. 収斂成分を主体とする止瀉薬については、細菌性の下痢や食中毒のときに使用して腸の運動を鎮めると、かえって状態を悪化させるおそれがある。

【問35】

胃腸鎮痛鎮^{けい}痙薬に配合される成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ロートエキスは、吸収された成分の一部が母乳中に移行して乳児の脈が速くなる（頻脈）おそれがあるため、母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避ける必要がある。
- b. オキセサゼインは、胃腸鎮痛鎮^{けい}痙薬と制酸薬の両方の目的で使用される。
- c. エンゴサク（ケシ科のエンゴサクの塊茎）は、鎮痛鎮^{けい}痙作用を期待して用いられる。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	正	正	正

【問36】

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 浣^{かん}腸薬の注入剤の薬液は人肌程度に温めておくと、不快感を生じることが少ない。
- b. 浣^{かん}腸薬は一般に、直腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがあるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避けるべきである。
- c. サントニンは、蟻^{ぎょう}虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示すとされる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	正	正	誤

【問37】

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 強心薬は、疲労やストレス等による軽度の心臓の働きの乱れについて、心臓の働きを整えて、動悸^きや息切れ等の症状の改善を目的とする医薬品である。
- b. 気つけとは、心臓の働きの低下による一時的なめまい、立ちくらみ等の症状に対して、意識をはっきりさせたり、活力を回復させる効果のことである。
- c. ^{りょうけいじゅつかんとう}苓桂朮甘湯には、強心作用が期待される生薬は含まれず、主に尿量増加（利尿）作用により、水毒（漢方の考え方で、体の水分が停滞したり偏在して、その循環が悪いことを意味する。）の排出を促すことを主眼とする。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問38】

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. HDLコレステロールを「悪玉コレステロール」、LDLコレステロールを「善玉コレステロール」と呼ぶことがある。
- b. 高密度リポタンパク質とは、末梢組織のコレステロールを取り込んで肝臓へと運ぶリポタンパク質である。
- c. 血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺^{しび}れ）の緩和等を目的として、ビタミンE（トコフェロール酢酸エステル）が用いられる。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	正	正

【問 39】

貧血用薬に関する次の a～d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. フマル酸第一鉄は、糖質・脂質・タンパク質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進することを目的として用いられる。
- b. 銅はヘモグロビンの産生過程で、鉄の代謝や輸送に重要な役割を持つ。
- c. ビタミンCは、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。
- d. マンガンは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB₁₂の構成成分である。

1. (a, b) 2. (a, c) 3. (b, c) 4. (b, d) 5. (c, d)

【問 40】

ユビデカレノンに関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 循環器用薬として使用して、1カ月以上症状の改善が認められない場合も、継続して使用することが重要である。
- b. 別名コエンザイムQ10とも呼ばれる。
- c. エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンB群とともに働く。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問4 1】

外用痔疾用薬とその成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. アミノ安息香酸エチルは、粘膜表面に不溶性の膜を形成することによる、粘膜の保護・止血を目的として、配合されている場合がある。
- b. アラントインは痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して用いられる。
- c. ステロイド性抗炎症成分が配合された坐剤及び注入軟膏では、その含有量によらず長期連用を避ける必要がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

【問4 2】

泌尿器用薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. モクツウは、ツツジ科のクマコケモモの葉を基原とする生薬である。
- b. カゴソウは、煎薬として残尿感、排尿に際して不快感のあるものに用いられる。
- c. 竜胆瀉肝湯リゅうたんしゃかんとうは、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 4 3】

婦人薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. センキュウ、トウキ、ジオウは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壮、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- b. エストラジオールは、長期連用により血栓症を生じるおそれがある。
- c. 桃核承気湯^{とうかくじょうきとう}は構成生薬としてダイオウを含むため、妊婦又は妊娠していると思われる女性の使用に関して留意する必要がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問 4 4】

アレルギー用薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ベラドンナ総アルカロイドは、鼻腔^{くう}内の刺激を伝達する副交感神経系の働きを抑えることにより、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として用いられる。
- b. クレマスチンフマル酸塩は、交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として配合される。
- c. 内服のアレルギー用薬と外用の鼻炎用点鼻薬で同じ成分が重複することがあるが、投与経路が違うので、相互に影響し合うことはない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	正
5	誤	誤	正

【問 4 5】

点鼻薬に配合される成分とその主な作用・目的に関する次の a～d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

成分	主な作用・目的
a. リドカイン -----	肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑制する
b. ベンザルコニウム塩化物 -----	細菌による二次感染を防止する
c. クロモグリク酸ナトリウム -----	局所麻酔作用により鼻粘膜の過敏性や痛みや痒 ^{かゆ} みを抑える
d. グリチルリチン酸二カリウム -----	鼻粘膜の炎症を和らげる

1. (a, b) 2. (a, c) 3. (b, c) 4. (b, d) 5. (c, d)

【問 4 6】

眼科用薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 洗眼薬は、主に抗菌成分が配合されており、結膜炎（はやり目）やものもらい（麦粒腫）、眼^{けん}瞼炎（まぶたのただれ）に用いられるものである。
- b. 一般用医薬品の点眼薬では、全身性の副作用が現れることはない。
- c. コンドロイチン硫酸ナトリウムは結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	誤	正
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	正	正

【問47】

外皮用薬に関する次のa～dの記述について、正しいものの組み合わせを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 外皮用薬を適用する皮膚表面に皮脂が多く付着していると、有効成分の浸透性は高くなる。
- b. 外皮用薬は、表皮の角質層が柔らかくなることで有効成分が浸透しやすくなることから、入浴後に用いるのが効果的とされる。
- c. 軟膏^{こゆう}剤は、その薬剤を容器から直接指に取り、患部に塗布したあと、また指に取ることを繰り返すと、容器内に雑菌が混入するおそれがあるため、いったん手の甲などに必要量を取ってから患部に塗布することが望ましい。
- d. エアゾール剤は、至近距離から同じ部位に連続して噴霧することが望ましい。

1. (a, b) 2. (a, c) 3. (b, c) 4. (b, d) 5. (c, d)

【問48】

外皮用薬に含まれる成分とその主な作用・目的に関する次のa～dの記述について、正しいものの組み合わせを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

成分	主な作用・目的
a. クロルヘキシジン塩酸塩	一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示す
b. ピロキシリン	創傷面に薄い皮膜を形成し、保護する
c. ナファゾリン塩酸塩	患部局所の血行を促す
d. ヘパリン類似物質	患部局所におけるヒスタミンの働きを抑える

1. (a, b) 2. (a, c) 3. (b, c) 4. (b, d) 5. (c, d)

【問49】

角質軟化薬及びにきび用薬に用いられる成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. イオウは、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。
- b. スルファジアジンは、細菌の細胞壁合成を阻害することにより抗菌作用を示す。
- c. クロラムフェニコールは、細菌のタンパク質合成を阻害することにより抗菌作用を示す。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	正	誤	正

【問50】

頭皮・毛根に作用する配合成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. カルプロニウム塩化物は頭皮の血管を拡張し、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
- b. ヒノキチオールは、ヒノキ科のタイワンヒノキ、ヒバ等から得られた精油成分で、抗菌、血行促進、抗炎症などの作用を期待して用いられる。
- c. カシュウは、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	正	正

【問5 1】

歯槽膿漏薬に配合される次の a～d の成分のうち、殺菌消毒成分に該当するものの正しい組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. セチルピリジニウム塩化物
- b. チモール
- c. カルバゾクロム
- d. グリチルレチン酸

1. (a, b) 2. (a, c) 3. (b, c) 4. (b, d) 5. (c, d)

【問5 2】

咀嚼剤である禁煙補助剤に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 大量に使用すると禁煙達成が早まるので、1度に2個以上使用するのが望ましい。
- b. 口内炎や喉の痛み・腫れの症状がある場合には、口内・喉の刺激感等の症状が現れやすくなる。
- c. 噛むことにより口腔内でニコチンが放出され、唾液とともに飲み込まれた後、そのほとんどが胃粘膜から吸収されて循環血液中に移行することにより効能を示す。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	正	正
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	正	誤

【問53】

ビタミン成分のうち、次の記述に該当するものを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素であり、骨歯の発育不良、くる病の予防等に用いられる。

1. ビタミンA
2. ビタミンD
3. ビタミンE
4. ビタミンB₁
5. ビタミンB₁₂

【問54】

滋養強壮保健薬に用いられる成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. システインは、肝臓においてアルコールを分解する酵素の働きを助け、アセトアルデヒドと直接反応して代謝を促す働きがあるとされる。
- b. アスパラギン酸ナトリウムは、骨格筋の疲労の原因となる乳酸の分解を促す等の働きを期待して用いられる。
- c. グルクロノラクトンは軟骨組織の主成分で、軟骨成分を形成及び修復する働きがあるとされる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問55】

漢方処方製剤に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 漢方処方製剤を使用しようとする人の「証」（体質及び症状）を理解し、その「証」にあった漢方処方を選択することが重要である。
- b. 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合、生後3ヶ月未満の乳児にも使用することができる。
- c. 漢方処方を構成する生薬には、複数の処方でも共通しているものもあり、同じ生薬を含む漢方処方製剤が併用された場合、作用が強くなり現れたり、副作用を生じやすくなる恐れがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問56】

漢方処方製剤のうち、次の記述に該当するものを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの高血圧や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症、湿疹・皮膚炎、ふきでもの、肥満症に適するとされる。構成生薬としてカンゾウ、マオウ、ダイオウを含む

- 1. 黄連解毒湯おうれんげどくとう
- 2. 防己黄耆湯ぼういおうぎとう
- 3. 防風通聖散ぼうふうつうしょうさん
- 4. 大柴胡湯だいかいこうとう
- 5. 清上防風湯せいじょうぼうふうとう

【問57】

消毒薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 次亜塩素酸ナトリウムは、酸性の洗剤・洗浄剤と反応して有毒な塩素ガスが発生するため、混ざらないように注意する必要がある。
- b. クレゾール石鹼液は、ほとんどのウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
- c. エタノールは、粘膜刺激性があり、粘膜面や目の回り、傷がある部分への使用は避けることとされている。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	正
3	誤	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	誤	正

【問58】

a～dの殺虫剤の有効成分のうち、次の記述に該当する特徴をもつものの正しい組み合わせを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

アセチルコリンを分解する酵素（アセチルコリンエステラーゼ）と不可逆的に結合してその働きを阻害することにより、殺虫作用を示す。

- a. プロポクスル
- b. ジクロルボス
- c. ペルメトリン
- d. ダイアジノン

1. (a, b) 2. (a, c) 3. (b, c) 4. (b, d) 5. (c, d)

【問59】

尿糖・尿タンパク検査薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 尿タンパクを検査する場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とし、激しい運動の直後は避ける必要がある。
- b. 医薬品の中には、検査結果に影響を与える成分を含むものがある。
- c. 正確な検出結果を得るためには、尿糖又は尿タンパクを検出する部分をできるだけ長い時間尿に浸しておかなければならない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問60】

妊娠検査薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 妊娠検査薬は、尿中のエストラジオールの有無を調べるものである。
- b. 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日が過ぎて概ね1週目以降の検査が推奨されている。
- c. 経口避妊薬などのホルモン剤を使用している人では、妊娠していなくても、検査結果が陽性となることがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正